

平成30年度 学校評価書

I 経営の重点に関わること

学校名： 静岡市立高等学校（定時制）

1 責任ある行動力と自主的・協調的な精神の涵養を図り、社会人として望ましい職業観や勤労観を身に付けた健全な勤労学生を育成する。		自己評価	評価	学校関係者評価委員会から
2 重点目標  生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、学校行事、就業体験等)を通して、3つの資質・能力(基本的な生活習慣・基礎力、自己肯定感・自己有用感、自主性・主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会等が連携し、皆で支援する。	(1) 基本的な生活習慣の確立及び心身の成長	基本的な生活習慣を身に付ける。(あいさつ、身だしなみ、言葉づかい等) 【全職員】  【学校説明】 ・あいさつを励行し、生徒間や教員とのコミュニケーションの活性化を図った。 ・積極的に生徒に声を掛け、些細な変化を見逃さない生活指導を行った。生徒の出席状況も比較的良好で、日常の挨拶もしっかりできるようになった。 ・全般に出席状況は良好だった。年度当初12人の在籍からスタートしたが、ここまで一人の退学者・長期欠席者も出していない。	A	A  A  A  A
	(2) 自己肯定感・自己有用感を生徒一人ひとりが自ら育む教育	① 外部講師の講話等を通して、在り方・生き方教育の充実を図る。【全職員】  【学校説明】 ・NPO法人「わかものまち」の協力を得て、まちづくりに関わる体験的な主権者教育を行った。生徒は、まちづくりに関して考えることで、主権者意識の高まりとともに、自己肯定感・自己有用感が高まった。 ・進路講演会では、体験実習を交えて行った。体験を通じて、自己の適性に気づくことができ、自己肯定感が高まった。	A	
	② 同窓生等の協力を得ながら、伝統ある母校の歴史や諸先輩方の業績等について理解を深め、市立高校定時制課程で学ぶ誇りと意欲を高める活動を行う。【全職員】  【学校説明】 ・2021年度の閉課程を見据えて、自校の歴史や同窓生の活躍を学び、愛校心や自尊心を高める活動を行った。具体的には、本校定時制の歴史や田安門について調べ学習を行い、その成果を合同文化祭で発表した。	A		
				○教師と生徒との人間関係が良くなると、子どもは落ち着く。退学者、長欠も無く、出席率も大変素晴らしい。 ○長期欠席がないことは、生徒一人ひとりの努力の賜物。努力は、成長を育むものです。 ○挨拶・身だしなみは、現状の心境を表すものです。この変化を見逃さずコミュニケーションを積極的に取ることが重要です。今年の結果は担当教諭のこの見守りができている所以と評価します。 ○「出席状況は良好だった」「ここまで1人の退学者・長期欠席者も出していない」このことは生徒が自分の生活の場としてしっかりと学校生活を位置づけている結果だと思います。友達や教職員との人間関係(活動や会話)に大きなストレスもなく安心できる生活がおくれていることに対して、素晴らしい教育活動だと思います。
				○生徒の気持ちに寄り添うことが重要です。そのためにも教諭の自己研鑽を期待します。 ○いろいろな企業の人に、職場の話をもっとしてもらいたい。 ○「まず、基礎的学力をつけることが優先」という考え方は間違いだと思います。識字教育においても、実生活の場(置かれている社会的な立場・課題を含め)を考えさせながら文字や文章を学ぶことにより、積極的な学ぶ姿勢が芽生えていったと言われています(生活改善にもつながった)。貴取り組みにおける生徒たちの変容をどのような表れ(指標)として具体的に評価するか、期待しています。
				○外部講師や同窓生の様子、市高の伝統など学ぶことは、自分の生き方を考える大切な要素である。 ○「学び」に止まらず、「発展」に繋げることが重要で評価します。今後も学習した内容の理解を深める工夫を期待します。 ○定時制教育が単なる全日制の補完教育ではなく、働きながら学ぶという意義(生涯学習社会において、全日制よりも優れた制度だろうと思います)を生徒が実感できたら素晴らしいことだと思います。文科省のように、自己肯定感よりも自己有用感を育てるべきだと言うならば、定時制教育に最も本格的に取り組むべきではないでしょうか。

	(3)自主性・主体性を生徒一人ひとりが自ら育む教育	生徒が主体的に取り組み、達成感や成就感が得られる機会を意図的に設定する。【全職員】	A
		【学校説明】 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員が各学校行事において担当者を割り振り、企画から運営までを経験させ、達成感や成就感が得られるようにした。</li> <li>生徒からの発案で、北海道胆振東部地震への募金活動を実施した。その結果、8,000円以上の募金が集まった。主体性の現れと捉えている。</li> </ul>	

A	○自分のことが精一杯の生徒が社会の動きに目を向けて動き出したことは大変素晴らしい。 ○ボウリング大会などの開催において、企画段階からゴールまで全過程を生徒会でやりきったことを評価したい。また、募金活動も思いを行動に移せたことは今後の糧になる。 ○学校行事における生徒の自主的運営は学校行事の趣旨の柱と思います。「失敗なく無事に終了しました」より、どのように生徒が関わったかに主眼が置かれているようで評価します。
---	---

## II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	生徒一人一人に寄り添う授業の実践に努める。【全職員】	A
	(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	【学校説明】 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間の確保に努めた。各教科の年間授業時数を1単位あたり30時間(4年は28時間)前後確保した。</li> <li>学習指導に関する校外研修の内容を全職員で共有し、授業、評価の改善に努めた。</li> <li>欠点保有者へは丁寧な個別補講を行った。</li> </ul>	
		高校生、社会人としての規範意識や順法精神を身に付ける。【生徒課】	A
(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	【学校説明】 <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に生徒に声を掛け、些細な変化を見逃さないよう心がけた。問題行動には厳しく指導にあたった。結果的に、年間の生徒指導件数は0件だった。</li> <li>年間のいじめ件数も0件であった。</li> <li>年間交通事故件数0を目標に、交通安全教室の開催や自転車・オートバイの検査等を行い、交通安全について指導してきた。幸い、大きな交通事故・違反もなく、交通ルールを遵守して登下校できた。</li> <li>薬学講座を開き、覚醒剤や違法ドラッグの恐ろしさと、規範意識を身に着けた。</li> </ul>		
	学校行事、生徒会活動等へ積極的に参加する。【生徒課】	A	
		【学校説明】 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒主体の生徒会活動(学校行事運営)ができた。</li> <li>学校行事については延べで数名の欠席はあったものの、概ね良好であった。</li> <li>学校行事等において、学年を越えた活動が定着し、生徒間の交流は十分にできていた。</li> </ul>	

A	○能力に大きな隔りがある中での指導は大変であるが、一人ひとりに寄り添った指導ができていた。 ○引き続き、生徒に対して丁寧に耳を傾けてください。 ○教員と生徒との対話で授業が進行していると感じました。そのため、A教員→(aさん・bさん・cさん・dさん)ではなく、A教員→(aさん)、A教員→(bさん)、A教員→(cさん)、A教員→(dさん)が成立していたように思います。
A	○交通事故は、自分自身はもとより、相手側(交通事故被害者)の生活に大きな影響を及ぼすことを学ぶことで、自己の悲惨さと交通安全ルールの重要性の理解が深まると思います。 ○学校で生じたことはできるだけ「教材化」すべきだと思います。生徒感のトラブルが解決されたことは、重要なことと思います。とともに、生徒が解決できたことを実感として理解し、学んだと思えることが大切だと思います。
A	○少人数であるがゆえに、学年を超えた交流の場が必要です。リーダーシップ・協調性・多様性も尊重を磨く機会になります。 ○小中学校時代、集団行動が苦手な生徒が多かったのではないかと思います。彼らが行事に係われるようになったという実感が持っていますか。その自覚も大切なような気がします。

2 生徒指導	(1)一人一人を大切にした指導 【市共通項目4】	個人面接や教育相談機能の充実を図る。【生徒課】	A	A	○日常の生徒とのやり取りなど、より深い生徒の理解につながっている。 ○保護者との面談が大切なように思います。彼らの自己評価が低いのは、課程での保護者の理解不足も原因では。
3 進路指導	(1)進路指導の充実	① 積極的に就業を経験し、職業観や勤労観を身に付ける。【進路担当】	A	A	○アルバイトなどを通して仕事をする楽しさを更に体験するよう指導していきたい。 ○職業に貴賤はなく、不必要な仕事は一つもありません。また、年齢的に将来の仕事を決めかねていることが一般的だと思います。生徒の考えに沿ったアドバイスをお願いします。 ○なるべく正社員に採用できるように。 ○事情がある生徒以外全員が働いていることは、素晴らしいと思います。給料はどうしているのでしょうか。中には、次のステップ(資格を取るための等)の自己資金の一部と考えている生徒はいないでしょうか。自立への一歩、二歩……と思います。
		② 市高版「キャリア教育テキスト」を活用し、キャリア教育を充実させ、職業意識の向上を図る。【進路担当】	A	A	○キャリア教育の柱は働いて身につけるものではないでしょうか。すぐに辞めたくなるのを乗り越えたきっかけや、辞めたのちに何を考えたか等、大切な経験をしたことを表してやることでは。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	防災教育、交通安全教育の推進及び危機管理体制の充実を図る。 【管理職・生徒課】	A	A	○千代田消防署との防災訓練、良かったのではないですか。 ○防災訓練は自分自身にか関わることだから年何回も実施しても良いと思う。
		【学校説明】 ・外部講師招聘による交通安全教室（年1回）と自転車点検（各学期1回）等を実施した。 ・9月に、避難訓練（夜間経路確認）と防災訓練（体験型）を実施した。千代田消防署と連携し、水消火器体験と心肺蘇生法、AED講習を実施した。 ・防災マニュアルの改定に着手し、防災組織の見直しも行った。			

5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	生徒自ら正しい健康管理ができ、安全で規則正しい生活習慣を身に付ける。 【養護教諭・保健体育科】	A
		【学校説明】 ・給食の摂食率を毎日管理し、給食の摂食指導を契機とした食育教育を行った。 ・「保健だより」を発行し、学校保健の啓発に勤めた。 ・学期ごとに養護教諭による生徒の健康面談等を行った。 ・歯の健康や睡眠についての健康指導など、養護教諭が主体となって健康指導を積極的に行った。	
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	特別支援教育を重視し、個々の生徒の状況把握と支援に必要な情報を共有し、必要に応じて個別の支援計画を作成する。 【教務課・特別支援担当】	A
		【学校説明】 ・中学校側及び保護者からの情報提供を基にして、当該生徒に対する指導方針を教職員間で確認し指導支援した。 ・県および市の特別支援教育の研修会に職員を派遣した。 ・個別の支援計画については、個々の生徒の情報をデータとして共有することに着手したが、まだ本格的な作成には至っていない。 ・特別支援教育に関する研修を5回実施した。生徒理解や多様性、インクルーシブ教育の実現に向けて教職員の意識の高揚を図ることができた。	
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	① 生徒の情報と教育課題を速やかに全職員で共有する。【全職員】	A
		【学校説明】 ・生徒の心身の不調や対人関係のトラブルなどに関する情報を、日常的に共有ができた。	
		② 職員のワークライフバランスに配慮した校内体制の整備を図る【管理職】	A
		【学校説明】 ・年休が取得しやすく、午前出張時の勤務時間の変更にも柔軟に対応できる職場の雰囲気を作ることと目標とした。 ・年休制度や「変形労働時間による勤務の割振り」、「勤務時間帯の変更」に関して、それぞれの制度や考え方についての説明会を開き、職場全体での理解を促した。 ・その結果、休暇制度の周知徹底ができ、休暇や割り振りが取得しやすい職場の雰囲気になった。	

A	○食べることは生きること、自分の健康は自分で守る生徒にしっかり身につけさせたい。 ○とても重要な分野です。日頃の健康状態については十分に気にかけて生徒の様子を見守ってください。歯科や睡眠・栄養の不足は後々に、大きな影響が出てくることを繰り返し伝えることが重要です。 ○食育に力を入れることは大切なことと思います。このことを通して保護者との強力関係が築ける必要があります。学校教育における養護教諭の役割は益々重要になると思います。
A	○支援計画の作成を期待しています。 ○特別支援教育は「個別の指導計画」にあるように感じます。各担当が、生徒の得意とすることや困難を感じていることを把握し、共通理解をしていくことが重要と感じます。
A	○全職員で一人ひとりの子どもを育てているという意識で取り組んでいる。 ○各案件ごとの対応・対策の連携体制も築いてください。
A	○教諭の勤務体制や年休制度はとても重要です。働きやすい環境づくりに引き続き務めてください。

8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	効果的な少人数教育の研究をすすめる【研修担当・全職員】	A	A	○個人差がある中での指導は一人一人の指導になりやすい。話し合いをどう設定するかなど課題も多いと思われる。研究を重ねて頑張ってもらいたい。
		<b>【学校説明】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県総合教育センターの指導主事定期訪問を受けて、国語科の「主体的・対話的で深い学び」に関する研究授業を行った。</li> <li>・中部定時制副校長教頭会主催の授業研究会に延べ3人の教員を派遣し、研究授業と合評会を行った。</li> <li>・授業公開週間を年2回設け、他教科の取組状況を職員が把握することができた。「主体的・対話的で深い学び」についての研修を2回実施し、授業改善の一助となった。</li> <li>・上記を含めて、多様なテーマにて、15回以上の研修を実施した。</li> </ul>			
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	① 学校評議委員による学校評価等により教育活動を点検し、改善を図る。 【管理職】	A	A	○是非、今後も、学校評議員の授業公開を実施してもらいたいと思います。
		<b>【学校説明】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回の学校評議委員会では、生徒の授業に向かう姿勢を評価していただいた。</li> <li>・生徒と教員の良好なコミュニケーションが、授業の様子に現れていると評価していただいた。今後も、生徒理解と授業改善に努めていきたい。</li> </ul>			
		② 学校だよりや生徒会新聞、またHP等による積極的な情報発信を行う。 【管理職・生徒課】	A	A	○ホームページでの情報発信良かったと思います。
<b>【学校説明】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより（「市定だより」）を年6回発行の予定だったが、4回にとどまった。理由は、より広報効果の高いホームページでの情報発信を重視したからである。</li> <li>・生徒会だより（「市定新聞」）を年2回発行した。</li> <li>・学校ホームページ（「WEB版市定だより」）を中心に積極的な情報公開・広報を行った。年間で24回（月2回ペース）を目標とし、結果的に年間28回以上の配信が実現した。</li> </ul>					

学校から 経営のまとめ(成果と課題)

- 成果①:年間を通じて、生徒指導・いじめ・長期欠席がいずれも0件であり、学校生活は安定していた。遅刻・早退・欠席も、比較的少なく推移し、生徒は学校生活に意識が向いていた。これらの成果の背景には、職員同士の密接なコミュニケーションがあり、さらに、生徒と教職員間にも深い信頼関係が結ばれていた事がある。
- 成果②:職員研修は、例年に比べて充実した。研修担当の尽力によるところが大きい。
- 成果③:HPでの広報活動が充実した。転編入の問い合わせ時に、「HPをみた」と述べる方も多かった。閉課程が控えているが、最後まで学校活動を広報することは、大いに意義があると考えている。
- 課題①:職員同士、生徒と職員の関係が密接であるがゆえに、組織的な対応をせずとも、問題が解決してしまうことが多く、組織的な対応の充実が望まれる。例えば、学校評議員も指摘されているように、個別の支援計画や指導計画については、対応がおくれており、今後の組織的な対応が課題となっている。
- 課題②:生徒の人権感覚を育む取り組みが課題である。生徒の人間関係づくりの苦手さは、大きな問題である。その背景には、自他への人権感覚の希薄さがあると思われる。今後、人権感覚を醸成する取り組みを進める必要である。

学校関係者評価委員会まとめ

- 2021年の閉課程まで、今いる生徒を立派に送り出すという使命感を持って取り組んでください。
- 年間を通じて、落ち着いて学校生活ができており、その結果、生徒も充実した時間を送れていると強く感じました。教員のご苦勞の賜物です。引き続き、きめ細かな目配りと心配りで生徒の成長の後押しをお願いいたします。
- 「働くこと」と「学ぶこと」を両立させることは、素晴らしい教育活動と思います。「社会の中で、働くこと」は辛いことも多々あると思います。そのことを次のステップに教育の場で繋げることができれば、こんな素晴らしいことはないと思います。引き続き、素晴らしい教育実践を続けていただけたらと思います。